

「大学入学共通テスト」の現状と対策

2021年1月に実施された大学受験生対象の「共通テスト」が実際どうだったのか、また、センター試験との違いやこれからの対策はどうしていきべきかまとめました。

【共通テストとは】

2020年度入試まで、およそ30年ほど実施されてきた「大学入試センター試験」の後継にあたる試験です。国公立大学の一般選抜は原則共通テストを受験する必要があります。また、多くの私立大学でも共通テストの成績を利用する「共通テスト利用方式」を設定しています。今や大学進学を考える受験生にとってこの共通テスト対策は必須となっています。

【センター試験との違い】

センター試験の問題と比べての特徴は…

読み取るべき資料等の分量が増加しました。そして、複数の資料から適切に情報を読み取り、その情報を活用し、他の資料や教科書での学習内容と結びつけ考察する力が今までより必要になりました。

理解の質が問われ、「思考力」「読解力」を発揮して解くことが求められています。

【英語】

リーディングでは発音・アクセント・語句の整序など「知識」のみを単独で問う問題が無くなり、全て読解問題に変わりました。そのためセンター試験に比べ、英文の分量が大幅に増加。これらの文章量に対する対策がより必要となりました。

またリスニングは英文の読み上げが1度しかない問題もあり、早期からしっかりとリスニング対策が必要です。

【数学】

数学I・Aはセンター試験より試験時間が10分長く70分となり、単なる数値を求める問題から「実社会において数学を適用・解釈して解く問題」や「複数の登場人物の会話から、その考え方を踏まえて解答を導く問題」など、今までのセンター試験にはあまり見受けられない問題が多数出題されました。数学の内容はそこまで難しくなかったのですが、条件や設定の説明文が長く、読解力も必要となりました。必要な情報を文章から素早く読み取る力が必要で、こちらも対策と慣れが必要です。

【国語】

従来型の「与えられた問題文を正しく理解する」読解問題だけではなく、「問題文とは別の文章・資料も参照し答える」「問題文から与えられる複数の文章から総合的に考えて解答する」など、内容理解だけではない力も問われました。何となく解く、ではなくきちんとした情報処理の力をつけることが大切です。

【理科】

化学では目新しい傾向の問題は少なくセンター試験を踏襲する問題が多かったです。難易度がアップしました。物理は従来のセンター試験より分量も難易度もアップしました。生物は2020年センター試験よりも考察問題などが多くなりましたが難易度は下がりました。化学の平均点が他の科目よりも20点以上低くなってしまったため、得点調整が行われました。

【社会】

地理歴史では資料読解問題が増加しました。しかし知識問題が軽視されたわけではなく、正解を導くために多数の知識が必要とされました。したがって共通テストの出題は資料読解が重視されているだけではなく、従来の知識問題も出題されている点に注意が必要です。公民では統計や資料を用いて計算をする問題などが新しく出題されました。

【今すべき対策は】

①これから数年間は、出題方針の微調整や問題作成の試行錯誤が続くと考えられます。そのため、今回の出題傾向だけではなく、様々なタイプの問題演習をこなして、バランス良く実力をつけていく必要があります。今年度出題されなかったから、来年度は出題されない、という事は無いからです。

また共通テストの前に発表されていた試行調査(このような問題が出るかもしれませんという見本問題)から傾向をとらえていた受験生は上手に問題に対応できたようです。

②「基礎学力」をおろそかにしないこと。「読解力」「発想力」「判断力」という言葉に惑わされず、基礎知識の定着を軽視しないことです。今回の問題でも基礎知識の正確な理解がなければ解くことができない問題が多くありました。

③早めから入試を意識した勉強を始めること。ベストの授業でしっかり対策をしていくことも大切です。科目数が多い共通テストを着実に進めるにはやはり早めから勉強をすること。高3になってから焦るのではなく、高1高2から学校やベストの授業でしっかりと学力をつけ、入試を見据えた対策をスタートしましょう。